

もっと知りたい

武者小路実篤

読んでみよう!

なつれつ 熱烈な片思いの小説

『お目出たき人』

こい こんな恋もある・・・!?

■ストーリー

26歳の「自分」は、自宅近くの女学校に通う、美しく可憐なお鶴さんを見初め、話をしたこともないのに熱い思いを寄せます。「自分の妻になる人はこの人しかいない!」

人づてに結婚を3回申し込み、断られてもめげません。とうとう、お鶴さんは他の人と結婚してしましますが、それでもなお、たとえお鶴さんが「私は一度もあなたのことを思ったことはない」と言ったとしても、それは本心ではないに違いない…と考えるのでした。



20代のころの実篤

●読み解くヒント

- ◎「おめでたい」人ってどういう意味だろう?
- ◎一方的な恋。でもストーリーカーと違うところはどこだろう?



お目出たき人



武者小路実篤

新潮文庫

今でも手に入る新潮文庫『お目出たき人』

作品データ

『お目出たき人』……明治44(1911)年2月、実篤25歳のときに発表。
この作品は、実篤の実体験をもとに書かれました。

小説を のぞいてみよう!



お鶴さんに恋していたけど、もっと大切にしていたことは何だろうか？

自分は自分の処へ来ることを一番幸福だと感じてくれる人でなければ、此方からお断りしたい。自分は生れつきの道学者である。

そうして自分は極端の個人主義者である。

自分を他人の為に少しでも犠牲にすることを喜ばない自分は、他人を自分の為に少しでも犠牲にすることを恥とする。

ましてや、愛する故を以て愛するもの、自由を束縛し意志を束縛するものを心から憎む自分は極端にまで自分の為に恋人を不幸にさせたくない。(四章)

自分の気持ちも大切だけど、
相手の気持ちも同じように大切だったんだね。

失恋を知った「自分」。さて、どうやって受け入れる？

…自分は自分を勇士と思っている。自分を恋せぬ女が人妻になろうともそれは自分にとって幸なることであろうとも不幸なことではないはずだ。そう云う女を妻にしなかったことは喜ぶべきである。自分は自業自得の失恋の為に身体をこわすことを恐れるような人間ではないはずだ。自分はするだけのことをした以上は運命を甘受するだけの哲人にならなければならぬ人間だ。(十三章)



さあ、『お目出たき人』を
読んでみませんか？